



特59

915

赤穂義士銘傳

梅田  
國政  
画

義士









磯貝十郎左門藤原俊

三

二

四

一



大高源吾源忠雄

矢頭右門七教兼

大石清左門藤原信清

三

二

四

一



菅谷半之丞 菅原正利  
 内匠頭愛一の近習小姓と  
 勤め後馬廻りとあり仇  
 討のとき天晴の働と為り  
 茅野和助常成  
 大麥目  
 起  
 小忠義の  
 命と落せしめ  
 勇々  
 掛



矢田五郎右エ門 藤原祐武  
 主家滅亡のち赤垣源蔵とも不  
 住武助と変名し居りしが本懐  
 と逐引上るとき我家の近辺の人々ハ  
 矢田赤垣と見て大みぢりきり  
 若年 大石主税 藤原良兼  
 るれども強  
 勇  
 本懐  
 と達  
 松平  
 家小神預  
 中母の自害と解  
 大は  
 敷き悲しけ

義士



片岡源五右門源高房  
常石の坐傍ありて万全と謀り  
柏井藤江の暗計其意を用ひて  
起り長矩切服及び一程の  
大事と成りしと云ふ  
原惣右門元辰  
大石都末在  
江戸  
盟約の  
者と指揮  
せしめ置  
楚町に医師とあり君と云ふ



潮田之丞高教  
浅野家の  
臣  
忠義  
誠抽  
家禄二百  
石は登用と討入の夜も羅指子  
やく真先ふとび入り比類なき働  
中村勘助政辰  
吉良家出入の大工棟梁小便り家の繪図と  
寫しとり大石と与へあり。

三六

六

小野寺重内藤原秀知

江都み在于小野十卷と変名  
採療治とありて諸家へ出入り  
其夫の木望達せしと聞自害  
して死しありと云

奥田孫太

夫重

討盛

入の

夜半

あく秘術と盡し



あく秘術と盡し  
群の働あり

勝田新左門源武亮

関東下

商人

身

善

朝暮敵

の

やまを捜り大石お知りぬ終

本懐とつけりあり

岡島八十右門常樹

關東平餅葉子とあり敵のやうに

とまかり得たりと







義士



間新六郎藤原光風  
實地を頼り自ら大石を送  
れり依り敵地の案内を  
詳み知る光風あり  
赤垣源蔵藤原正賢  
大石の旅  
宿あり  
赤心  
懐を達し



堀部安兵衛源武康  
浅野家の恩を報じ終つて復  
讐の解ふ入り救意  
吉田沢  
右門藤原  
兼貞  
夜討の時  
あが  
戦ひ  
ら眼  
つや

義士



富森助右衛門源正固  
 忠孝両全の士あり夜討の死  
 比類なき備せり又非語を  
 皆と活徳の門は能名を教帳  
 堀部弥兵衛金丸  
 討入の死  
 大膽の老人



三村治郎左衛門常  
 敵上野介の首級を舟中  
 墓所へ送る舟中の守  
 護たり尤水まんの達人を  
 神崎与五郎源則休  
 吉良の屋敷へ入る様子を  
 大石  
 大石  
 大石



吉田忠左衛門藤原兼亮  
 木懐達せし後良雄  
 供子細川家御預成  
 強勇比類る他士あり  
 奥田貞右門藤原行高  
 討入の夜歌  
 と伐  
 以て  
 草  
 達人のまゝ入すあり

長八

十一



江戸  
 不破数右衛門平正種  
 下り義士の  
 死入る其の蔵場  
 中へ鎌倉中へ駈動せし  
 貝賀弥左衛門友信  
 大石深庵ありて義士  
 五人通の  
 誓  
 花  
 て返  
 未熟の  
 めの心ち憂ひあり

長八



横川 葛平 宗利  
 夜討の二日前 芝を立退  
 み近辺の人々 驚き 思ひ  
 居し 又 敵討のうら 将て  
 その名の見えし せん せん  
 前原 伊助  
 宗房  
 義  
 列  
 加つ 本  
 望と 達せ



小野 寺 幸右 工門 秀當  
 大高 忠雄 舎弟 又 義心 鉄  
 石の 士 養父 共 小盟 約 入  
 間 重次 郎 元 興  
 吉良の 邸 争う 搦んと  
 その 身 乞 食 と なる 本  
 所 辺 と 歩  
 行 け  
 仲 間  
 の の の  
 え び ぎ ー ふ せ び る く  
 こ ん さ ろ ち せ と け け

新刊

角兵衛の妻おらん



明治十八年九月一日御届

編輯兼出版人 日本橋区若松町十五番地  
 尾關 小助  
 淺草區南元之助  
 發兌人 金之助

僕元助

定價拾錢

